

## デートDVと学校

著者名	高橋裕子	充実した仕事に就きたい。でも、幸せな家庭も築きたい。 そんなあなたのための生き方バイブル。「夫の転勤をチャンスに変える方法」「子育てのサポーターを増やすヒント」「再就職のための学び」など、仕事と家庭を両立させてきた女性たちの体験談から。自分らしく幸せに生きるためのシンプルな習慣を探ります。心配しなくても大丈夫。きっとうまくいきます！
出版社	エイデル研究所	
登録月日	H23.3	
登録番号	1300	

## 弁護士に聞きたい！ストーカー・DVの問題Q&A

著者名	馬場・澤田法 律事務所	改正ストーカー規制法(25年10月施行)、改正DV防止法(26年1月施行)対応の最新版！三鷹ストーカー殺人など最新事件の解説も盛り込み、ストーカー、DVの制度と手続をやさしく解説。
出版社	中央経済社	
登録月日	H23.3	
登録番号	1301	

## 中学生へのドメスティック・バイオレンス予防啓発に関する研究

著者名	須賀朋子	若年層のDVに対する知識の実態を明らかにし、中学生を対象とした予防啓発プログラムを開発。早期介入による効果を検証し、予防教育のあり方について考察する。
出版社	風間書房	
登録月日	H28.3	
登録番号	1463	

## 女子と貧困

著者名	雨宮 処凜	「見えない貧困」とと言われてきた女性と貧困にスポット 貧困、格差問題を追いや続けて来た著者が、女子の貧困問題について、 体験も交えて告発する。キャバ嬢たちの労働組合や育児ハラスメント で職を追われた人など、貧困女子のリアルを紹介し、解決の道を探ります。
出版社	かもがわ出版	
登録月日	H29.11	
登録番号	1528	

## AV出演を強要された彼女たち

著者名 宮本 節子

AV出演を強要された！ ビジネスの裏に隠された暴力とは？！ モデルにならないか、とスカウトされ契約書にサイン。いざ撮影となつて現場に行ってみたらAVだった。嫌だと訴えても、契約不履行で違約金がかかるぞ、親にはばらすぞ、と脅され、仕方なく撮影に応じると、以後、次々に撮影を強要される・・・。「AV出演を強要された」女性からの生の声を聞き支援するなかで見えてきた、驚くべき実態を報告する。

登録番号 1533

## 近代日本公娼制の政治過程

著者名 関口すみ子

公娼性をめぐる政治的攻防を追跡し、近代日本政治史の書き換えを迫る挑戦の書  
近代日本ではなぜ「公娼」が容認されてきたのか？ これまで埋もれてきたその政治過程に光をあて、公娼性の変遷を明らかにすると同時に、当時の社会と格闘した三人の女性の実情を、これまでとは異なる視点から浮き彫りにする。

登録番号 1543

## 「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。

著者名 小川たまか

性暴力被害、痴漢犯罪、年齢差別、ジェンダー格差、女性蔑視CM、#metoo…多くの人がフタをする問題を取材し、発信し、声をあげ続けるライター・小川たまか初の著書。

出版社 タバブックス

2016年から2018年に起きた、性犯罪やそれにまつわる世論、性犯罪法改正、ジェンダー炎上案件などを取り上げ、発信してきた記録です。

登録月日 H31.2

登録番号 1555

## 「支配しない男になる」

著者名 沼崎一郎

暴力を選ばず、子育てに参加し、女性の自己実現のための法整備に挑むー。そんなテッティした「支配しない男」に私はなりたい。

出版社 ふねうま社

DVの真相とは何か、性差別の本質はどこにあるのか、男の育児参加は少子化を止めるのか？ 生活と実践を通して得た「答え」がここにある。

登録月日 R1.8

登録番号 1564

## 痴漢外来 性犯罪と闘う科学

著者名	原田隆之	痴漢は犯罪であり、同時にその一部は「性的依存症」という病気でもある。東京都心のとある精神科クリニックで開かれる、通称「痴漢外来」。
出版社	筑摩書房	ここでは性的依存症の「治療」プログラムによって、通常30%台と言われる痴漢の再犯率を3%にまで抑えている。痴漢行為を行うのは、どんな人なのか。彼らに共通する「認知のゆがみ」とはなにか。どうすれば痴漢をやめさせることができるのか。最新の研究成果に基づき、痴漢をはじめとする性犯罪・性的問題行動の実態に迫る。
登録月日	R2.3	
登録番号	1576	

## それはあなたが望んだことですか

著者名	河野喜代美	現代を生きる女性が抱える問題を共に考察し、未来に向け提案！ 1960年代後半に登場したフェミニズムは、女性差別の実態に焦点を当て、それが社会構造から起きていることを訴えています。…フェミニズム発祥以降、女性が置かれている状況が変化し、女性個々人も変わってきて現状について、それがどのような実態なのか、なぜそのような変化が起きているのか再考します。
出版社	三一書房	
登録月日	R2.7	

登録番号 1581

## 家族、捨ててもいいですか？

著者名	小林エリコ	自殺未遂、父親のDV、兄からの暴力・・・コロナのいまだからこそ家族に問う 「本当にその人と一緒にいたいのか」
出版社	大和書房	家族はひとつ屋根の下で生活を共にすることが幸せ？ 果たして本当にそうなの？ …ブラック企業に勤務して自殺未遂、生活保護を経験後、自立。その過程を綴ったエッセイ『この地獄を生きるのだ』で注目を浴びた著者が、自身の家族に焦点を当てたエッセイ。
登録月日	R2.7	

登録番号 1582

## からだと性の教科書

著者名	イルソ・ストッケンダ ル他	性の先進国ノルウェー発の話題作！！ 月経のしくみから避妊方法まで、日本では習わない最新知識が満載！
出版社	NHK出版	若者に向けた「性の健康」の教育的アドバイザーを務めるノルウェーの医師が、女性であることを不便・不幸と思わないよう、安心できるようすべての女性のために正しい知識を伝えます。
登録月日	R2.7	

登録番号 1583

## 立ち止まらない少女たち

著者名 大串尚代 なにものにもとらわれない女の子の世界。  
「少女マンガ」という枠組みの文学史的意義を再考し、同時に文化受容の重要な媒体であることを、主に1960年代後半から2000年にに入った頃までの作品を取り上げて考察し、その魅力に迫る。

出版社 松柏社

登録月日 R4.1

登録番号 1598

## 告発と呼ばれるものの周辺で

著者名 小川たまか 日本では、多くの女性が痴漢に遭う。みんな、あまりにも日常的過ぎて、なんでもないことのようにやり過ごしてしまう。日本では、レイプに遭ったら、必ずしも法律が被害者を守ってはくれない。あなたの隣人、友人、家族も当事者になりうる。性犯罪、性暴力への偏見や誤解をほぐし、やさしい社会を築くため、女性たち、支援者たちの声の記録。

出版社 亜紀書房

登録月日 R4.3

登録番号 1602

## モラハラ夫の精神的支配から抜け出す方法

著者名 福山れい 暴言、無視、生活費を入れない、自分の間違いを認めない…。夫からのこうしたモラハラに悩まされたことがある女性は、既婚女性の8割以上にのぼるといわれ、離婚原因の3位以内にランクインするなど、深刻な問題になっています。モラハラ被害者が人生を見つめ直し、自分らしく生きる人生を選択できるようになるためのヒントを紹介します。

出版社 日本能率協会

登録月日 R4.12

登録番号 1612

## 誰もこの涙に気づかない

著者名 杉山成子 「女は男に幸せにしてもらうものだ」と、知らず知らずのうちに内面化してしまうほど日本では女性の人権が軽んじられている。DV加害者に男が圧倒的に多いのは女性差別が背景にあるからだ。選んだあなたが悪いんじゃないの。女性をと取り巻く構造が悪いの。女がつながれば、女の選択肢は増え、未来は変わる。

出版社 同時代社

登録月日 R5.3

登録番号 1615

## なぜ、それが無罪なのか！？

著者名 伊藤和子 日本は、性暴力被害というとても深刻な問題について、被害者を責めて沈黙させる一方、性加害には寛大な社会なのではないか。  
出版社 ディスカバー・トゥ #MeToo運動が起きて以降、世界中で鳴り響く声と日本の現状との落差を私は考えるようになりました。  
登録月日 R5.3 ✓女性の13人に1人が性被害経験あり ✓圧倒的に不利な立証責任が被害者側に課せられている

登録番号 1616

## モラハラ夫と食洗器

著者名 堀井亞生 弁護士が伝えるモラハラ離婚の実態と勝ち方  
ゆむい 2000件超えの離婚・恋愛トラブルを扱ってきた弁護士が実例を元に明かす戦略とモラハラ夫が生まれた理由を語ります。  
出版社 小学館 家族のあり方が多様化する今、パートナーとの関係を見直し、自分の足で生きるうえで必読の本。  
登録月日 R5.8

登録番号 1621

## 「助けて」と言える社会へ

著者名 大沢真知子 コロナ禍でより顕在化した性暴力、男女不平等社会の実態。性暴力被害者の実態を社会に伝え、性暴力が生じるメカニズムを解明するとともに、性暴力のない社会を目指すために、私たち一人ひとりがどう取り組んでいくべきか…。  
出版社 西日本出版社

登録月日 R5.12

登録番号 1624

## 言えないことをしたのは誰？

著者名 さいきまこ 大反響のスクールセクハラを描く問題作  
なぜ生徒に性加害する教師がいるのか?  
出版社 現代書館 教師によるスクールセクハラは 権力関係を利用して起こる。  
自分のせいだと思い込まされた生徒は 被害を誰にも言えない。

登録月日 R6.10

登録番号 1633